

青少年活動月間に当たって

国際ロータリー第2660地区 ガバナー

福家 宏



2013年4月、米国イリノイ州シカゴにおいて規定審議会が開催され、当地区からは岩田宙造PGが代議員としてご出席下さいました。その規定審議会で、新世代奉仕部門は、かつての名称である青少年奉仕部門に変更されました。

ロータリーでは1908年から青少年を対象としたプログラムが実施されて来ました。そして1979年、国連の国際児童年に合わせてRIは「ロータリーは子どもを大切に」というスローガンを採択し、また「ロータリアンは青少年の模範」"Every Rotarian an Example to Youth"の標語を採択しました。

その後1996年度ルイス・ジアイRI会長は、青少年対策を最重点課題と考え、未来を担う新世代が何を望んでいるかを知るために、全世界のクラブが新世代会議を開催することを要請しました。この年度より従来の「青少年活動月間」の名称が「新世代のための月間」となりました。そして、それまで14才から30才までの若者を対象としたプログラムが、新世代のためのロータリー・プログラムでは、0才から14才の子ども達も視野にいった活動に拡大されました。

さらに2010年規定審議会で、新世代奉仕はロータリー・クラブの活動の土台となるクラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕に続く、第5の奉仕部門として承認され昨年度まで、新世代奉仕としての活動が続けられて来たのです。

では今後0才から13才を対象としたロータリーのプログラムはどうなるのでしょうか？RIやロータリー財団は、乳幼児と学童への奉仕活動については青少年育成とは異なった人道奉仕の一環として捉えて、未来の夢計画FVPの補助金を用いる形で実施しようと考えているようです。すなわちグローバル補助金で示されている6つの重点分野のうち、直接的には「母子の健康」「基本的教育と識字率の向上」「疾病予防と治療」などの分野で、乳幼児と学童のためのプログラムを立ち上げて行くということだと考えられます。もっとも当地区では青少年活動委員会が小学生高学年を対象とした少年

少女ニコニコキャンプが実施されています。

RIは年齢30才までの若い人すべてを含む青少年の多様なニーズを認識しつつ、よりよき未来を確実なものとするために青少年の生活力を高めることによって、彼らに将来への準備をさせること」をロータリアンの責務とし、すべてのクラブと地区は青少年の基本的ニーズを支援するプロジェクトに着手するよう奨励して来ました。基本的ニーズとは、健康、人間の価値、教育、自己開発であり、国際ロータリーが用意する次の四つの常設プログラムで、これらを実践する必要があります。

- インターアクト(13才～18才)
- ローターアクト(18才～30才)
- ロータリー青少年指導者養成プログラム(RYLA)(14才～30才)
- ロータリー青少年交換(高校生)

私たちの2660地区でもこれらのプログラムは活発に実践されております。

更に、RIは児童および青少年の安全を考え、肉体的、性的および精神的な虐待、とくに性的虐待あるいはハラスメントの防止に関する声明や指針を設け、その実践を勧めています。当地区では、不幸にもあってはならないトラブルに対応するために、危機管理委員会が設置され、危機管理積立金が用意されています。

日本には米山奨学金制度や米山学友会があり、米山奨学生や学友会メンバーとロータリアン、そして他の青少年プログラムの若い人々との活発な交流が望ましいと、私は考えております。そして、新しい世代の人々がロータリーについての知識を深め、近い将来ロータリアンになって頂けるように、私たちは努める必要があると考えます。

ロータリーの高齢化や会員減少に歯止めをかけることは今や非常に大切な課題となっています。若い世代の人々との交流には、ソーシャル・メディア・ネットワーク・システムが威力を発揮します。地区の広報委員会にも力をお借りして、このシステムが本格的に機能し始めることを願っております。